

e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2015

発行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
北海道帯広市西20条北2丁目
20-4 東洋内
TEL 0155-58-1129
FAX 0155-58-1130

十勝の初冬

ついにやってきました積雪。北海道の人は、雪で一面真っ白にならないと何か落ち着かないのが初冬の時期。雪は厄介者で、積もったら除雪しないとならない。でも雪は天からの贈り物。これがないと作物や土地の環境が保てない。翌年の作柄に影響する。それにしても雪除けにこれほど体力を使うものか。特に最初の雪が湿っていて重くて、使っていなかった筋肉がフル活動。翌日は全身硬直、ふしぶしにきていますね。道路はテレンテレン状態。最近の除雪作業が良くないと評判で、残った雪が日中融け朝方凍り、轍に車が捕まります。軽自動車が立ち往生し、若者は雪山に突っ込んでいます。

朝の散歩も、-8℃。バリバリ凍っています。そのせいか太陽も寝坊し、6時だいぶ過ぎてからやっと顔を出してきます。久しぶりにエゾリスを見ました。目の前の雪山を横切って行きました。毛皮を着ていても手足顔が出ているので大丈夫かなと気になりましたが…。師走に入り、なんと1年が速かった事か(毎年言っていますが)。気忙しくなりますがお互い気を引き締めてゆきましょう。



活動のお知らせ

実施事業：ご参加ご苦勞様でした。好評参加の内、閉幕しました。

- 11月6日(金) 北海道畜産公社(帯広) 第5回 北海道肉専用種枝肉共励会
第20回 北海道肉牛研究大会&環境リサイクル肉牛協議会シンポジウム
- 11月7日(土) 新得町 道総研 畜産試験場 北海道アンガス牛振興協議会20周年記念モニュメント除幕式
現地検討会 十勝清水コスモスファーム、上田畜産



NEWSばか読み

- WHO 食品加工品に発がん性
10/27:何食べれば良いのか この発表の意図は
- 中酪 指定生乳団体の広域化へ再編着手 10/27:自由化が始まる
- 農林水産省 TPP最も影響力懸念 牛豚乳発効から5年重点政策 10/29:
- 製パン大手 国産小麦の使用拡大 高級感・食感に付加価値
10/29:良さ創出
- 道内求人倍率1倍超え 建設・観光に人手不足 10/29:底上げに期待したい
- 中国一人子政策撤廃 10/30:マーケットが変わる
- 塩野義製薬 インフルエンザ1日治療薬開発 10/30:完璧を望みたい
- 上場企業6割増益 北米好調、訪日客下支え 10/31:景気は米中頼み
- 全電力会社4-9月黒字 燃料費減寄与 10/31:原発必要性は如何に
- ハウス食品 coco壱番子会社化
11/1:メーカーの外食直下進出増える可能性
- 釧路地区 乾乳期管理を共有化グッドドライ運動 11/2:共同管理が進む
- 道のTPP影響調査 農産物の価格下落・競争力低下予想
11/3:施策は農林水産省任せ?
- 10月子牛相場 最高値を更新 淡路で100万円超え 11/3:バブリーだね
- パナソニック ITを駆使したスマート型牛舎開発 11/3:牛も文化生活
- 農林水産省 豚肉・乳製品に輸出用統一マーク制作
11/4:信用度は確保できるかな
- 農林水産省 54年連続で耕地面積減少 荒地増加 11/4:農政象徴的だね
- ソフトバンク スマホで農作物生育情報e-カカシを発信10/8:農業IT化進む
- ホクレン受託乳量102%の大幅伸び 特に十勝根釧 11/5:
- TPP発効後7年目で条文見直し 11/5:世論の激変緩和策か

- 牛井屋3社 10月大幅増収 割引セール効果 11/6:価格に庶民は反応
- 農林水産省 豪州向け牛肉製品解禁
11/6:輸入に対し1%でも売れるかな
- 伊藤ハム・米久 経営統合HD設立 11/7:三菱戦略着々
- 日本食・肉料理の外食産業 海外進出盛ん 11/7:根底需要に期待
- 有機飼料に偽装 11/10:監督官庁はどこなの
- 総務省 農林水産省・環境省に家畜防疫に対し是正勧告 11/10:
- 農林水産省 TPP対策で牛豚基金 予算措置から法制化へ
11/11:体質変わらず
- 農林水産省 耕作放棄地に1.8倍課税強化 11/11:アメモ必要
- 内閣府 街角景気 天候不順で10月道内悪化 11/11:天候のみかな
- TPP対策 農家の減収 保険でカバー 11/12:保障もアメリカナイズ
- 消費者省 加工品の原料産地表示を拡大方向 11/13:ハムソーに影響も
- JA士幌 ロボットトラクター9台導入本格稼働開始
11/14:畑にも人がいなくなり
- 米国通商代表 TPP経緯 牛肉で豪州に遅れ焦り露呈
11/14:政治の駆け引き
- 近大 ウナギ味のナマズ量産へ技術開発 11/14:偽装にならない?
- 農林水産省 料理の自給率一目瞭然PCソフト開発
11/16:自給率消費者から
- クラボウ 簡易型食肉識別装置開発 11/16:偽装摘発容易に
- 中国発 銅・原油・トウモロコシなど素材デフレ加速
11/19:クシャミで風邪ひくね
- 宮崎 観音池パーク 国産原料使用の介護食開発
11/19:良いところに着目
- 歳暮用ハム低迷 WHO食肉加工品ガン報道で 11/20:反応いいね
- マック閉店相次ぐ 撤退後に競合店進出 11/22:経済戦争シビア
- 中央畜産会 低コスト・短工期のスマート畜舎開発
11/23:新規に建てる人いるの

東京直近NEWS(11/30 Shi-REPORT)

ホルス 枝相場は若干の上げ含みの状況から変わらず。枝肉相場は高値維持し@1150を突破する勢い。販売状況は、枝肉高騰勢いとは真逆で、部分肉単価は低調状況。大手ハムソーメーカーも部分肉販売に苦戦しており、特に赤身部位の投げ売り情報が多い。時期的に、鍋需要への期待あるも、天候不順から前半は野菜も高値と気温も比較的温暖なことから切落し含めてスライス材が動かない。産地は共励会シーズンで、枝肉の高値安定状況も、部分肉販売が苦戦しており、収益性の悪化と在庫過多状況。12月についても、末端量販の発注オーダーが近年に無く遅れており確定発注が確認できない。末端量販も年末に向けた棚割りが決まらない状況。年末に

向けて、ホルスは例年需要減になるが今年はさらに鈍い可能性。

経産牛 11月枝相場は若干の上げ傾向。C1等級で@600台とガリ枝は変わらない状況も、2等級は高値安定から若干の上げにて着地。販売は頭数の慢性的不足から引き合いは強いが、一時のピークよりはダウン。ここにきて、輸入パーツに押されている環境。挽き材も同様に、枝肉相場高値から、値上げ商談続き末端は輸入もの使用にシフト傾向。生協筋などは国産使用を継続しているが、売価も値上げしていることから使用量は減少している。産地側は、使用頻度の減から在庫は膨れてきているため、今後の年末、年度末時期に在庫圧縮で処分販売するメーカーも出てくる懸念あり。

左先生の畜産学研究NEWS

シリアの避難民問題、パリの同時多発テロ事件いずれも戦後70年間日本が安泰を装うことができて来たことに較べると激動する世界の流れを感じます。TPPの日本経済への効果と対応策、消費増税に伴う軽減税率の線引きなどが最近の話題ですが、農業者が生産構造を心配するTPPの影響や消費増税の庶民感覚を踏まえた本質論など、日本国民の将来を見据えた確固とした対応で「木を見て森を見ず」に陥らないことを切に願っています。e-びーふNews24号の学術情報は下記の2件にします。その他のものは紙面の都合で次回にします。

1、2015.9.11日本畜産学会第120回大会講演要旨(野幌 酪農学園大学キャンパス)

今大会の演題総数は208題で、肉牛に関する一般講演の課題は約30題です。以前と異なり、字数の範囲内で環り協の副産物利用や自給飼料による牛肉生産の考えに沿った演題名に絞り、育種・繁殖・畜産物利用の分野は次回とします。1)I12-05黒毛和種繁殖牛の初乳中免疫グロブリンに及ぼす乾燥ニンジン給与の影響(谷口;京大院農) 2)I12-06スターターとしてのアルファルファ発酵飼料の給与が黒毛和種子牛の発育に及ぼす影響(堂地;酪大) 3) I12-07哺乳口ポットによる哺乳量の違いが黒毛和種子牛の発育に及ぼす影響(金田;家改セ) 4)I12-08エリンギ廃菌床の飼料化に関する検討(小仲;宮崎畜試) 5)I12-09暑熱期の飼料イネWCS給与が黒毛和種去勢牛の生産性に及ぼす影響(柴田;近中四農試) 6)I12-10品種の異なる飼料用イネのWCS給与が黒毛和種雌牛の消化性、窒素利用率および第一胃内容性状へ及ぼす影響(前田;宮崎畜試) 7)I12-11飼料用米ペレット配合飼料を給与した黒毛和種去勢肥育牛の増体成績(樋口;畜草研) 8)I12-12 破砕飼料用米給与が黒毛和種肥育牛の発育、飼料利用性ならびに健康状態に及ぼす影響(中西;鹿大農) 9)I12-13膨潤

配合飼料の給与が黒毛和種去勢牛の発育性および産肉性に及ぼす影響(鈴木;家改セ) 10)I12-14 膨潤配合飼料の給与が黒毛和種去勢牛の第一胃内容性状に及ぼす影響(齊藤;家改セ) 11)I12-15 温州みかんジュース残渣給与が黒毛和種肥育牛の肉質等に与える影響(齊藤;静岡畜技研) 12)I12-16 柑橘皮ペースト給与が褐毛和種高知系の肥育に及ぼす影響(岩本;高知大農) 13)I12-17 日本短角種の2シーズン放牧における肥育後期の大豆サイレージ給与が増体、枝肉形質および肉質に及ぼす影響(柴;東北農研)

2、2015.9.12 日本産肉研究会第15回学術集会(野幌 酪農学園大学キャンパス)

「食肉の生産から食卓までを繋ぐ」と銘打つ日本産肉研究会学術集会が日本畜産学会の関連研究会としてシンポジウム形式で開催されました。テーマは「日本畜産への問題提起と赤身牛肉生産の可能性」で、「現状の生産・流通・消費を考える」「科学的視点で赤身牛肉の生産と機能性を考える」「総合討論」の3部構成ですが、話題提供者と課題は以下の通りです。

- 1)花房俊一(環境リサイクル肉牛協議会) TPP妥結前夜 北海道肉牛の残された手段 - 近況マーケット分析からシミュレーション -
- 2)西川奈緒子(駒谷牧場) "野生牛"にかける - 様似町からの挑戦 -
- 3)小笠原英毅(北里大 FSC八雲牧場) 北里八雲牛は地方活性化の起爆剤となり得るか
- 4)瀬尾哲也(帯畜大) アニマルウェルフェアは概念から実践そして高付加価値化へ
- 5)有原圭三(北里大 獣医) 食肉、特に牛肉の機能性について - 美味しくして体によい牛肉の可能性を考える -

道総研 畜産試験場NEWS

「TPP妥結前夜 北海道肉牛の残された道～近況マーケット分析からシミュレーション」②

